

三とせの青春



祝 卒業 普通科5 2 期生・理数科4 4 期生

3月3日（火）普通科第52回・理数科第44回卒業式が行われました。普通科251名、理数科34名、計285名の生徒が3年間共に過ごした学び舎から巣立っていきました。

【卒業式 校長式辞より】

皆さん、南高での「三とせの青春」はどのような三年間であったでしょうか。私は着任してこの二年間の皆さんの様子を見てきました。高校生の本分である学業はもとより部活動や生徒会活動に、あるいは学園祭をはじめとする学校行事に、そして個々の進路目標の実現をめざしての孤独で厳しい戦いに、時に不安になったり悩みながらも逃げずに全力で向き合いながら成長してきた皆さんの姿は私達教職員にとっての大きな励みでもありました。

学校が開く朝七時過ぎからいつもきまって図書館で自習をしている人もいました。また放課後遅くまで残って先生に質問したり添削指導を受ける姿も思い出されますし、三年生の皆さんが中心となって「結束」というテーマのもと青春のエネルギーを燃焼させた学園祭、南高がまさに一つになったと感じられる三日間でした。そして何とんでも部活動、体育系では皆さんが二年生の時には県の男女総合優勝、今年度は第五位と年によって成績の変動はありましたが、変わらなかったのは勉強も部活動も両方頑張ってみせる、勉強も部活動も皆で頑張るという南高の伝統である文武両道へ挑戦でした。文化系の部活動においても全国高総文祭をはじめ、多くの大会で好成績をおさめたり、日々の活動に地道に取り組みお互いに感性を磨いてきました。

さて、本日南高を巣立っていく皆さんが生きていくのはボーダレスでグローバルな社会です。世界中の異なる文化や価値観を有する者が共存し共生していくことのできる世界にしていかなければなり



ません。口で言うのは簡単ですが、先日の後藤健二さんの事件も示しているようにそれは決して容易でなく地球規模の大きな課題です。また、二十一世紀のこれからの社会はグローバルな社会であると同時に人口減少社会でもあります。地元島根県の人口も七十万人を切ってしまいましたが、少子高齢化が進み労働人口が減少していても持続可能な社会を維持、いや、まさに創生していかなければなりません。そのために必要なのは、「人間の知恵」であり、これまで何度か皆さんに話してきた「物事を考え抜く力」であり、「一歩前に踏み出す力」であり、そして「チームで働く力」などです。そんな力を皆さんは少しずつ身につけてきました。

今年の三年生の皆さんは、私にはどちらかと言えば控え目で、人の気持ちのわかる心やさしい生徒の多い集団に見えましたが、授業でのグループディスカッションでは自分の意見を述べ合い、グループとしての意見をまとめる、それを文章で表現する、あるいは全体に発表する、といった学習を積み重ねてきました。また、二年生の時には人権についてのポスター発表や理数科の課題研究発表など全員がプレゼンを経験する中で、少しずつたくましい学習者に成長してきました。皆さんの未来は今から決まっているわけでもなく、だれかに与えられるものでもなく、自ら切り拓いていくものです。どうか大学等に進んでも社会に出ても、与えられるのを待つのではなく、自分の方から取りに行く、つかみにいくという姿勢を持ち続けていってください。

社会や会社をリーダーとして引っ張っていくのもよい。学問や研究で人間の幸福に貢献するもよし。目立たなくて世の中の土台をしっかりと支えたり世の中に明かりをともしたり、人々を笑顔にしたり癒したり、あるいは自分の家族を養い守っていくことも大切なことです。この南高の三年間で皆さんが探求したそれぞれの夢という種にしっかりと水と肥やしをやって、その夢をいつの日か皆さんの人生を貫く高く太い志にまで実らせ、社会のために世の中の人々のためにその恵みを与えてくれることを期待しています。

卒業生の皆さん、いよいよお別れです。この中の三人は公務員として四月から社会人となります。全体の奉仕者として公共の利益のためにしっかりと仕事をしてください。また、この中には、今後の結果によってはさらに一年受験の準備を続ける人も出てくると思いますが、長い人生の中でそれも悪くない。覚悟を決めてやりなさい。そして大学等に進学する人は社会に出る日のために、十分な準備をしなさい。「偶然には準備のできていない人を助けない。」とはパスツールの言葉です。苦しいこと、つらいことが誰にもやってくるとは思いますが、そんな時は校歌に歌われている「松江の南空広く白雲悠々去りまた来たる、山並み遠く宍道湖の碧水洋々たゆとう見える」母校からの雄大の眺めを思い出して、皆さんがまた歩き出してくれるとしたら、幸いです。



卒業証書授与



卒業生答辞

竹島学習

2月22日の「竹島の日」を前に
2月19日、1年生2年生が竹島
問題について理解を深めました。

授業では、竹島の位置をはじめとし、島周辺の豊富な水産資源や海底資源などの経済的価値について、また、なぜ竹島問題が起きたのか、なぜ「竹島の日」を制定したのか等について学びました。



授業の様子

写真部 Nikon Top Eye 出場

2月6日～8日の3日間、本校写真部が全国の高校写真部の憧れの舞台「Nikon Top Eye 全国高校生写真サミット 2015」に山陰地方から初出場しました。横浜みなとみらいで開催された大会には、写真部から2年生の片寄志帆さん、足岡桃実さん、原田理奈さんの3名が挑み、チーム部門と個人部門の作品を撮影しました。このうちチーム部門の課題テーマは、「出会い・横浜」。3人の作品「祈り」は「北海道「写真の町」東川町賞」を受賞しました。

今回の大会は、決められた時間内で各地を自由に撮影することができ、生徒は自分達のペースで楽しみながらのびのびと撮影に臨むことができました。作品「祈り」は写真部がこれまでに取り組んできたテーマの一つ、「島根の神々」にちなんで、横浜でも神の存在に「出会い」たいとの願いを込めて撮影しました。



「祈り」

サッカー部 県新人大会 準優勝



島根県高等学校サッカー新人大会が浜田市で開催されました。2月7日（土）から始まった一次予選を順当に勝ち抜き、迎えた13日（金）の二次予選。相手の松江商業高校に前半2点先制され、苦しい展開となるも後半逆転。結果3-2でベスト4進出となりました。翌14日（土）準々決勝の大社高校戦でもその勢いを保ち、3-1で勝利。15日（日）の決勝戦では総体同様、強豪立正大湊南高校と対戦しました。試合は0-7（前半0-2）で敗れましたが、準優勝を勝ち取り、中国新人大会進出を決めました。

～大会を振り返って～（部顧問 本間英之先生）

「選手権大会ではベスト8だったので、中国新人は出るぞ！！という思いでやってきました。今回の大会の中でも大社高校は練習試合で8点9点と取られていたのでどこかでやられてしまうのではという不安もありましたが、よく1点で抑えたと思います。山口県での中国新人では、山口県1位の高校と対戦しましたが、体を張ってよく頑張りました。つくったチャンスをシュートまで持ち込むことができましたが、最後の最後に相手ゴールをわるることができませんでした。しかしやれるという感じもつかんでくれたと思います。立正大湊南高校という大きな壁はありますが次はインターハイに向けて挑戦し、突き抜けていってほしいです。」

中国大会が終わった翌日からグラウンドで練習に励むサッカー部の姿がありました。インターハイに向けて頑張れ！南高サッカー部！！



新人大会にて

今年度をもって転退任する教職員を紹介します

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|-------------------------|
| ・校長 | 小林 邦彦 先生 → 教育監 | ・理科 | 秋吉 優季 先生 → 安来高校 |
| ・教頭 | 津森 敬次 先生 → 県立学校改革推進室 | ・理科 | 江田 修一 先生 → 大田高校 |
| ・国語科 | 高松 文也 先生 → 退職 | ・理科 | 西村 洋子 先生 → 安来高校 |
| ・国語科 | 湯原 基 先生 → 大東高校 | ・保健体育科 | 角折 義男 先生 → 石見養護学校 |
| ・地歴公民科 | 馬庭 康輔 先生 → 隠岐高校 | ・音楽科 | 磯田 泰将 先生 → 大東高校 |
| ・地歴公民科 | 本間 達也 先生 → 島根県教育センター | ・英語科 | 安部 敦子 先生 → 退職（来年度非常勤講師） |
| ・数学科 | 山本 早苗 先生 → 横田高校 | ・英語科 | 岩成 敬 先生 → 島根中央高校 |
| ・数学科 | 吾郷 治正 先生 → 飯南高校 | ・養護 | 佐々木 久美子 先生 → 松江商業高校 |
| ・数学科 | 寺岡 智弘 先生 → 益田高校 | ・実習教員 | 宇山 みゆき 先生 → 雑賀小学校 |
| ・理科 | 大橋 直人 先生 → 出雲高校 | ・事務 | 岡本 宏志 企画幹 → 松江北高校 |

吹奏楽部定期演奏会

日時：平成27年3月25日（水）
17：30開場 18：00開演
会場：プラバホール（入場無料）

第8回文化部合同展

日時：平成27年3月25日（水）～30日（月）
10：00～18：00（最終日は16：00まで）
会場：島根県立美術館ギャラリー

朱雀祭はじまります！



是非ご覧ください。